小・中・高を見据えた主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

元玉川大学客員教授　小林弘和

Ⅰ 歴史的分野と高校「歴史総合」の新設――中・高の効果的な社会科指導

○はじめに

最近、「○○中等学校」等の名称の学校名を目にすることが多い。これは、平成10（1998）年に学校教育法が改正され、中学校を前期中等教育、高等学校を後期中等教育としていた従来の教育の課程を調整して、中学校３年間、高等学校３年間の合計６年間の中等教育に一貫性を持たせる体系的な教育システムを可能にしたためである。戦後の小学校６年間、中学校の３年間、高等学校の３年間、大学の４年間の計16年間の階段式・単線型の教育システムに大きな変革をもたらした。

一方、平成30（2018）年に高等学校学習指導要領が改訂された。従来の地理・歴史科において世界史Ａ又はＢが必修であり、日本史Ａ・Ｂ、地理Ａ・Ｂからが選択必修であった。従って、高校では日本史を学ばない生徒が生まれていた。今回の改訂で新設された「歴史総合」が２単位の必修科目となったことで、中学校で歴史を学んだ生徒は、高等学校で全員が「歴史総合」を学ぶことになった。この「歴史総合」は現行の中学校の歴史分野では、学習指導要領の内容で言えば、「Ｃ　近現代の日本と世界⑴近代の日本と世界、⑵現代の日本と世界」に該当する内容である。

中学校で歴史を指導する際にこの近現代史の内容については、再度、高等学校で必修科目として学ぶことを念頭において指導することは、極めて意義深いものがある。

しかし、一般の公立の中学校と高等学校の教育現場においては、設置義務者の違いや教員の人事権の違いから、中学と高校の社会科教師が席を同じくして教材研究や授業研究をする機会が、筆者の長い教員経験でも皆無に等しいのが現状である。

このような、現状に深い憂慮の念を持っていた者の一人として、今回の指導要領の改訂に伴う教科の改編や理念について中学校の社会指導に当たる教師が、高校の新教科「歴史総合」の理解を深めることは極めて大切であると考え、稿を起こした。

本稿では、この中高一貫教育の広がりと、高等学校学習指導要領の改訂に伴い新設された「歴史総合」の趣旨に視点を当てて解説することで、中学校の日本史指導の充実に少しでも寄与できることを目指したものである。その際、近現代史の学習が、今日の我が国を取り巻く国際情勢や現代社会の諸課題を生徒が正しく理解する上で極めて大切であることにも触れて、中学校における歴史教育の望ましいあり方を考察するものである。

１．我が国を取り巻く諸課題と近現代史

我が国を取り巻く諸課題には、近現代史の歴史的事象を背景とするものが少なくない。それらは、我が国の置かれた地政学的位置関係や、当時の歴史的相互関係の中で生じた課題でもある。

次代を担う生徒が、それらの歴史に見られる諸課題を現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する力や、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることを目指している。

⑴我が国を取り巻く今日的諸課題

グローバル化の進展に伴い、海外に居住する日本人や我が国に居住する外国人は増加の一途である。そのような状況の中で、諸外国との懸案事項と言われるものが数多く存在するが、その多くは近現代の我が国と諸外国の歴史的経緯によって生じた課題である。

中学校や高等学校で学習する近現代の中から時系列的に項目を整理してみると、以下のような今日的課題が教科書に取り上げられている。

〈主な今日的諸課題〉

○憲法改正を巡る諸課題
○北方領土・竹島・尖閣諸島を巡る未解決の諸課題
○靖国神社参拝を巡る周辺諸国の対応
○北朝鮮当局による日本人拉致問題
○台湾を巡る諸課題　等々

これらはどれも近現史の中で、我が国と関係する近隣諸国との国際秩序や相互関係、さらには地政学的な関係の中で生じたものである。

従って、これらを我が国の歴史の歩みと世界史的視点と国際状況を関連させて多面的・多角的に考察して、我が国の立場を正しく踏まえて理解し、表現できる生徒を育てることは、私たち教師や学校教育の大切な役割でもある。

⑵今日的諸課題と近現代史

ちなみに、上記の諸課題に関連する主な国際関係や社会情勢を時系列的に整理したものが**図１**である。

図１　近現代の我が国に関わる主な諸情勢

1925～39年	治安維持法成立／満州事変／5・15事件／国際連盟脱退／2・26事件／ノモンハン事件
1940～45年	日独伊三国同盟／欧州におけるドイツのソ連等への侵攻／太平洋戦争／広島・長崎への原爆投下／第二次大戦の終結及びソビエト連邦による北方領土侵攻
1946～50年	極東国際軍事裁判開廷／GHQの憲法草案の提示と日本国憲法公布／朝鮮戦争勃発／中華人民共和国建国／警察予備隊創設（現自衛隊）
1950～60年	サンフランシスコ講和条約／国際連合加盟／日ソ国交回復
1960年以降	日米新安保条約成立／小笠原諸島返還／沖縄本土復帰／日韓基本条約／中華人民共和国の国連加盟と台湾の脱退／日朝首脳会談と一部の拉致被害者の帰国

２．高等学校歴史分野の改訂――履修変更と「歴史総合」の新設

高等学校学習指導要領が平成30年に告示され、歴史的分野では単位取得の内容が改訂された。

従前の地理・歴史分野の世界史必修の在り方は、国際化、グローバル化の進展に伴い、複雑化し多様化する国際社会で活躍する生徒にとって、世界史を学ぶことが国際人として不可欠であるという発想から導かれたものであった。しかし、昨今の複雑化しグローバル化する国際社会の現状に鑑み、以下のような理由から歴史教育の転換が図られたのである。

第一に、国際化しグローバル化する国際社会にあって、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を育成すること。

第二に、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史（特に、近現代の歴史）を広い視野に立って多面的・多角的に考察することができる資質・能力の育成が求められること。

第三に、今日的な世界情勢を生み出した近現代史の歴史の大きな流れを、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」等の視点から考えることができること。

その上で、日本史と世界史を一体化して、それらの歴史的事象の意味や意義、特色などについて、時期や年代、推移、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察し、日本国民としての自覚を持ち、我が国の歴史や文化への愛情、他国の文化を尊重することの大切さなどの理解を深める必要性が従来にも増してきている現状に鑑み、次のような改訂がなされた。

教科等	科目		単位
地理・歴史	◎地理総合	必修	2
	地理探究	選択	3
	◎歴史総合	必修	2
	日本史探究	選択	3
	世界史探究	選択	3

特に「歴史総合」は、明治時代以降の近現代史を世界史と日本史を総合して相互に関連させて学習することで、国際秩序の動きの中での我が国の歩みを多面的・多角的に理解させ、日本の歩みと役割という自覚を持たせることが求められるようになった。

３．「歴史総合」とは――６つの視点で覗いてみよう

⑴近現代史の深い学びの視点

「歴史総合」の新設について、学習指導要領では次の６つの視点からその意義と役割を解説している。

①「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
②「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
③単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
④歴史の大きな変化に着目し、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える内容の構成
⑤資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
⑥現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する学習

以上の６点に示されている事柄は、明治以降の我が国を取り巻く国際情勢や国際秩序が大きく変化し、今日的な国際環境や国際関係を生み出したことや、国際秩序が著しく急速に変化する中での日本の歩みに対し、生徒一人ひとりが、将来を見据えて、向き合える資質や能力を育てる必要性が急務であることを示しているとも言える。

さらに、②③⑤に着目すると、「歴史総合」においても〈主体的・対話的で深い学び〉の実現に向けた指導方法の改善方を目指していることが見て取れる。具体的に見てみよう。

②では、学習に当たって「主題」を基にして、どのような「問い」を設定すればその主題に迫れるの

歴史的分野　年間指導計画・観点別評価規準表

※総時間数を120時間で構成しました。予備時間の15時間分は学校や生徒の実態に即して弾力的に活用ください。
※第１・２学年では、地理的分野と歴史的分野を並行して学習することを前提としています。
※指導計画については、学校の事情に合わせて柔軟に対応してください。

学期	前後期	累計時間	教科書ページ	項　目 (◎学習課題)	学習目標	評価規準の例
1年1学期	1年前期	1	巻頭❶～9	**日本の美の形／歴史の旅を始めよう／歴史モノサシについて** ◎「日本の美の形」を通して、日本人の歴史をたどってみましょう。	●歴史的分野の学習を始めるにあたって、日本のさまざまな芸術作品を年代別にたどり、日本の歴史に対する興味・関心を持つ。 ●歴史的分野の学習を始めるにあたって、歴史を学習する意義について考える。	●態度　日本の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を持とうとしている。 ●態度　歴史を学習する意味について考え、歴史学習を通して過去から受け継がれた経験などを学ぼうとし、これからの歴史学習への見通しを持とうとしている。
1年1学期	1年前期			**序章** 学習目標 ●次のような知識及び技能を身に付ける。（ア）年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解できる。（イ）資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。（ウ）自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。 ●次のような思考力、判断力、表現力等を身に付ける。（ア）時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現できる。（イ）比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現できる。 評価規準の例 ●知技　年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ●知技　資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ●知技　自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ●思判表　時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。 ●思判表　比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		

学期	前後期	累計時間	教科書ページ	項　目 (◎学習課題)	学習目標	評価規準の例
1年1学期	1年前期	2	10～11	**❶年代や時代区分の表し方** ◎年代や時代区分にはどのような表し方があるのでしょうか。	●歴史を学習する上で、必要となる年代や時代区分の表している意味が理解できる。	●知技　年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ●態度　年表を活用し、歴史的な出来事の年代や時代区分を知ることで、歴史学習へ主体的に取り組もうとしている。
1年1学期	1年前期	3	12～13	**❷歴史的な見方・考え方を働かせる** ◎歴史的な見方・考え方を働かせるには、どのようにすればよいでしょうか。	●「推移」、「時期や年代」、「相互関連」、「比較」、「現在とのつながり」の５つの「歴史的な見方・考え方」を働かせることを通して、社会的事象を多面的・多角的に考えることができる。	●思判表　２つの資料から、自ら考えたり、相手から聞いたりしたことを基に、共通点や相違点を整理することができる。 ●態度　新たな課題に気付き、解決していこうとしている。
1年1学期	1年前期	4～5	14～17	**❸歴史の流れと先人の活躍** ◎１つのできごとだけでなく、複数のできごとに着目して、歴史がどのように変化していったのか考えましょう。	●１つのできごとだけでなく、複数のできごとに着目して、歴史がどのように変化していったか考える中で、大まかな歴史の流れに気付く。	●思判表　小学校で学んだ歴史上の人物について、どの時代にどのような活躍をしたのか振り返りながら、歴史学習の全体像を推移し、時代区分やその移り変わりに気付く。
1年1学期	1年前期	6～9	18～23、150～153	**❹身近な地域の歴史の調べ方 1** ◎自分たちの身近な地域の歴史的なものやこと、歴史上の人物等から、自分の興味・関心に応じた課題を設定し、課題を探究しましょう。	●自分たちの身近な地域の歴史的なものやこと、歴史上の人物等の中から、自分の興味・関心に応じた課題を設定する。	●知技　身近な地域の歴史について、様々な資料を収集し、適切な情報を選択している。 ●態度　身近な地域の歴史に興味・関心を持ち、課題を設定しようとしている。
1年1学期	1年前期	10～12	18～23、150～153	**❹身近な地域の歴史の調べ方 2** ◎自分の興味・関心に応じて設定した課題を探究し、分かりやすくまとめ、自分なりの方法で発表しましょう。	●自分たちの身近な地域の歴史的なものやこと、歴史上の人物等の中から、自分の興味・関心に応じた課題を解決し、まとめようとしている。	●思判表　調べたことを自分なりの表現方法で適切に分かりやすくまとめ、発表しようとしている。 ●態度　身近な地域の歴史に興味・関心を持ち、課題を解決しようとしている。

指導展開編の使い方

学習目標と評価規準の例

本時の［学習目標］と［評価規準の例］を示しています。

●評価規準の記号

知技…知能・技術

思判表…思考・判断・表現

態度…主体的に学習に取り組む態度

課題

本時の学習課題を示しています。

展開例

［導入］［展開］［まとめ］の３段階で、［学習内容・学習活動］と［指導上の留意点］を示しています。

第１節の課題　日本の国と世界各地の文明は、それぞれどのように形作られていったのでしょうか。

本時の位置 ①②③④⑤⑥⑦ 14時間目／135時間

❶ 人類の誕生と進化

教科書 P.28〜29

学習目標	評価規準の例
●第１節の課題の見通しを持つことができる。 ●人類がどのように進化し、日本人の祖先がどのように日本列島にやって来たかを考察し、表現できる。	●知技　人類の進化について理解している。 ●思判表　日本人の祖先が日本列島にやって来た経緯を資料から考察し、表現している。

展開例	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導　入	○人類がどのように広がっていったかを考察する。 ・資料❶を見て考察し、交流する。	●個人で考察する時間をしっかり確保したうえで、ペアや班で交流を行う。 ・学級全体でも交流を行う。 ・単にルートを考えるだけでなく移動手段を考察できるような声かけを行う。
課題	人類は、どのように進化し、日本人の祖先は、どのようにして日本列島にやって来たのでしょうか。	
展　開	○猿人、原人、新人の違いを本文と資料❷から読み取る。 ・それぞれの脳の容積、道具、能力にわけてノートにまとめる。 ・まとめた内容を交流し、気づいたことを出し合う。 ○見方・考え方　資料❷で道具や火を使えるようになって、人類の何がどのように変わったかを考察する。 ○日本人の祖先が日本にやって来た経緯を考察する。 ・なんのためにやってきたのか、本文や資料❹から考察しノートにまとめる。	●あらかじめ表を作成しておく。 (例) ［脳の容積／使用道具／能力］ 猿人／原人／新人 ●打製石器を使用したこの時代を「旧石器時代」ということに触れる。 ●【解答例】 ・食料が採集から狩猟中心に変わった。 ・大型動物を食料にすることができ、食に困らなくなった。 ・食料を保存、調理することができるようになった。 ●資料❸で多様な動物が存在していたことに触れる。 ●資料❹から動物を追ってきたことは推測できる。 →どうして動物がやってきたかを考察すると地理的分野とつなげられる。 ●資料❺や歴史ビュ〜で当時日本に人類が存在していた根拠に触れる。
まとめ	○確認、探究を用いて、学習課題について自分の考えをまとめる。	●資料❶、❹から、日本人の祖先が日本列島にやって来たルートを踏まえて、その方法を考察する。

本時の要点

本時の学習内容の要点をまとめました。板書例としても活用できます。

本時の要点

課題：人類は、どのように進化し、日本人の祖先は、どのようにして日本列島にやって来たのでしょうか。

人類の出現

○旧石器時代

・人類の進化（約700万〜600万年前に誕生）

猿人：二足歩行で歩き、道具を使う。

↓

原人：火や言葉を使い、打製石器を使用。

↓

新人：洞窟壁画を残すなどの文化を持つ。

日本人の祖先

○人類の移動

動物を追って陸続きだった大陸を移動

↓

約一万年前に氷期がおわり、現在の地理に

○旧石器時代に日本に人類が存在していた根拠

→1946年に相沢忠洋が岩宿遺跡にて打製石器を発見

資料解説

教科書に掲載の資料（画像、表、グラフ、図）やコラム（［人物クローズアップ］［歴史ビュー］）について、詳しく解説しています。

資料解説

❶人類の出現と新人の広がり

人類の遠い祖先が出現するのは約6500万年前（恐竜が絶滅する少し前）であり、木の上で木の実などを食べて暮らしていた。2500万年ほど前になると雨が減少したことから森が少なくなり、木から下り、平地で生活するようになった。500万年ほど前になると人類と類人猿は分化し、人類は独自の進化を遂げることになった。

❷人類の進化

・猿人：脳の大きさは約500ccで、ゴリラ程度。初めて直立二足歩行を行い、石や骨で原始的な道具を作るなど、人類の特徴を示す。

・原人：100万年ほど前に出現したと考えられる。二足歩行を完成させ、脳も約800cc〜1000ccと大きくなった。石斧などの道具や火を使い、簡単な言葉を操れたといわれる。

・新人：約30万年〜20万年前にアフリカに出現。現代人と同じ身体構造とかなり高い知能を持っていたとされる。ヨーロッパに分布したクロマニョン人も新人に属し、精密な石器や骨器などの道具を制作し、すぐれた洞窟壁画を残すなどの文化を持っていた。

❸旧石器時代の人々によってえがかれた壁画（ラスコーの洞窟壁画）

フランスのドルドーニュ地方、ヘーゼル渓谷にある洞窟遺跡。1940年に地元の少年たちによって発見された。壁画には100点以上の動物がいきいきと描かれている。1979年に世界文化遺産として登録された。

❹約２万年前の日本列島と日本人の祖先の移動ルート

今日のような列島が形成されたのは約１万年前で、それ以前は北海道と樺太、九州と朝鮮半島はそれぞれ陸続きであり、日本海は巨大な湖となっていた。これは氷河期により海面が氷結し、今日より100mも海面が下がっていたためである。

研究によれば、６万年前が最も厳しい氷河期であったらしく、ベーリング海峡も氷でつながっていた。そのため、ユーラシア大陸と北米大陸が陸続きになっており、多くのアジア人が北米に移動し、のちのアメリカ先住民になったといわれている。３万〜１万年前になると、大地震や火山の噴火、気温の上昇などにより海水面が上昇し、世界の大陸はほぼ現在の形になっていく。

歴史ビュ〜 常識をくつがえした岩宿遺跡

1946年、民間の考古学者・相沢忠洋氏が群馬県笠懸村の関東ローム層の地層の中から発見した黒曜石でできた石槍。1949年には２万4000年前の石器も出土し、縄文文化発生前の日本に旧石器時代があったことが証明された。

［確認］［探究］の解答例

本時の学習のまとめになる［確認］と［探究］の解答例を示しています。

確認 解答例	探究 解答例
道具を使いこなし、一部は簡単な石器を使っていたとみられる。	氷期で陸続きだったので、歩くまたは動物に乗るなどして陸地を渡って来た方法や、黒潮の流れを利用し、丸木舟などに乗って海を渡って来た方法が考えられる。

第１章　第１節

※なお、本書では文献の引用に際し、紙幅の都合上、一部省略して引用している場合があります。また、文献名の前に「参考」と記載されたものについては、中学生にも理解しやすいよう、引用元の文章の要旨をまとめるなど、一部改変を施している場合があります。

第１節の課題　日本の国と世界各地の文明は、それぞれどのように形作られていったのでしょうか。

本時の位置 ①②③④⑤⑥⑦
15時間目／135時間

❷ 豊かな自然と縄文文化

教科書 P.30〜31

学習目標	評価規準の例
●縄文時代の特色を理解できる。 ●縄文時代の人々がどのように暮らしていたのかを考察し、表現できる。	●知技　縄文時代の特色を理解している。 ●思判表　資料から縄文時代の暮らしを考察し、表現している。

展開例	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導　入	○資料1、4から縄文時代の生活を想像する。 ・旧石器時代との違いを見つける。	●個人で考察する時間をしっかり確保した上で、ペアや班で交流を行う。 ・学級全体でも交流を行う。
課題	縄文時代の人々は、どのような暮らしと文化を築いていたのでしょうか。	
展　開	○確認　縄文時代の人々がどのような場所に住み、何を食べていたのかを抜き出す。 ・まとめた内容を交流し、気づいたことを出し合う。	●当時の生活の様子が資料6から推測できることにも触れる。
	○資料2、3から土器や磨製石器は何のために作られたのかを考察する。	●交流後に、土器は煮炊き・貯蔵・装飾に、磨製石器は狩猟や採集に使われたことに触れる。 ・石を磨く必要性についても触れる。
	○資料活用　教科書P.32 3を見て、神津島産の黒曜石で作られた矢じりなどが、なぜ、本州の縄文遺跡から多数見つかったのか、運んだ方法に着目して調べる。	●資料5の舟に注目させる。何に使われていたのかを考察する。 ・漁業と交易に使用されていたことも確認する。 ・交易の必要性についても触れる。
	○資料4の大型たて穴住居や大型掘立柱は何に使われていたのかを考察する。	●正解が明確ではないため、生徒の意見を尊重する。 ・集会所や作業所として使われていた可能性に触れ、当時集落があった可能性を伝える。
	○資料7の土偶は何を形どっていて、何のために使用されたかを考察する。	●アニミズムの考え方について触れる。 ・アニミズム…どんなものにも神が宿っているとする考え方。
まとめ	○確認、探究を用いて、学習課題について自分の考えをまとめる。	●「縄文時代の人々がどのような暮らしと文化を築いていたか」についてまとめる。 ・縄文時代の人々の暮らしが旧石器時代と比べてどのように変わったかを説明する。

本時の要点

課題：縄文時代の人々は、どのような暮らしと文化を築いていたのでしょうか。

縄文時代の始まり
○縄文時代…約１万6000年前〜約2400年前
　・氷河時代→温暖に…森林の広がり、木の実
○縄文土器…縄目の文様がある
　　食料の保存や煮炊きに使われた
○磨製石器…石を磨いて作られた
　　狩猟や漁、採集で使用された

縄文人の暮らし
○新石器時代…土器や磨製石器を使う時代
○川や湖、海の近くに集団で定住
　・たて穴住居…地面にほった穴に柱を立てて草ぶき屋根をかけた住居
　・貝塚…貝や貝殻、残飯をすてた場所
　・青森県の三内丸山遺跡から集落跡発見
○縄文時代…日本文化の基盤

資料解説

1縄文時代の生活の様子

約２万年前に氷河期が過ぎると、地球は温暖化に向かう。しかし、晩氷期とよばれる約１万3000年から１万年前の気候は、寒冷期と温暖期が数百年ごとに入れ替わる環境変化を繰り返していた。

それまで列島は針葉樹林に覆われていたが、西南日本から落葉広葉樹が広がっていき、北海道を除く多くが落葉広葉樹と照葉樹に覆われるようになった。コナラやブナ、クリなどの堅果類が繁茂するようになるとともに、それはマンモス、オオツノジカ、トナカイなどの大型動物を絶滅させることにもなった。人々は食料や水の入手しやすい場所に住居を造り、共同生活を行った。

１万年にも及ぶこの時代を通して人々は、自然に対する感性や自然と共存していくという考え方を共有するようになっていった。

3淵ヶ沢遺跡（静岡県沼津市）で見つかった黒曜石の矢じり

黒曜石は産地分析ができる。それによって現在では、３万8000年前には本州から神津島に黒曜石を取りに行っていたことがわかっている。神津島から約60km離れた伊豆南東海岸の見高段間遺跡（静岡県河津町）が、神津島産黒曜石の拠点となり、南関東や伊豆一円に流通したことがわかっている。

4三内丸山遺跡

図中にひときわ目を引く大型竪穴住居は10棟以上あったと推定される。その中でも最大のものは長さ32mもあり、現在はこれが復元されている。１階は半地下式で大きなホールのような空間が広がる。ロフトのような２階があり、３階建てであった可能性もある。集会場のような使い方をしたと考えられており、人々が集めてきた食材を保存食として加工する作業場でもあっただろう。

大型掘立柱建物で注目されるのは、柱穴の間隔、幅、深さがそれぞれ4.2m、２m、２mで統一されていることである。4.2mは他の遺構でも確認されている35cmを単位とする「縄文尺」の倍数であり、当時広範囲にわたって高い測量の技術が行きわたっていたことが推測される。また、柱本体にも腐食を防ぐため周囲を焦がすという手法が使われている。柱は直径１mというクリの巨木であった。

6貝塚

古代の人々のごみ捨て場であり、貝殻や骨だけでなく、破損した土器や石器、骨角器、焼土や灰も一緒に捨てられている。縄文時代の貝塚は日本列島で約2500か所発見されており、中でも千葉市は世界最大の貝塚密集地帯となっている。なお、日本は酸性土壌であるため、骨などの有機物が残りにくいが、貝塚はカルシウム分が豊富であるため、土壌はアルカリ性に保たれ、骨類などがよく保存されることになった。

7土偶

人間を模して、あるいは精霊を表現して作られたと考えられる土像で、沖縄を除くほとんどの日本列島で見られる。現存する最古の土偶は三重県で出土した縄文草創期のもの。全国での出土数は約１万5000体であるが、東日本に偏在し、西日本からの出土はまれである。また、多くは女性型であり、多産や豊かな自然の恵みを祈ったものと思われる。弥生時代になるとほとんど作られなくなった。

確認 解答例
・たて穴住居
・川や湖の近く
・イノシシやシカ、魚や貝類、マメ類など

探究 解答例
同じ場所で継続的に食料を手に入れられるようになったため、定住生活が行われるようになった。

第１章　原始と古代の日本

解答例・解説➡P.376～377

1　次のカードを見て、あとの各問いに答えなさい。

A　人類は、アフリカに現れた（　ⓐ　）を起源とし、原人、そして現在の直接の祖先といわれる新人へと進化をとげた。ⓑ石を打ち欠いてつくった石器を用いて生活をしていたこの時代をⓒ旧石器時代という。

B　日本が縄文時代のころ、世界各地にⓓ古代文明が起こった。農耕や牧畜が発達し、都市の中心には神殿があり、国家が成立した。そこでは高貴な家柄の王や神の子孫と考えられた神官を中心に身分や位が定められた。

C　ギリシャではアテネなどの有力な（　ⓔ　）という都市国家が各地にできたが、マケドニアに征服された。また、ギリシャ文化の影響を受けたⓕローマは、紀元前１世紀には地中海沿岸を支配する帝国を築いた。

D　紀元前16世紀ごろ、黄河流域にⓖ殷という国が建てられた。春秋戦国時代に、各国が軍備を強化し、国や社会をおさめるための学問がさかんになった。戦乱の世をへて、紀元前３世紀にⓗ秦の始皇帝が中国を統一した。

(1)　（　ⓐ　）・（　ⓔ　）にあてはまる語を答えなさい。

(2)　下線部ⓑの石器を何というか答えなさい。

(3)　下線部ⓒについて、次のタイトルの空欄にあてはまる遺跡の名前を答えなさい。

> 常識をくつがえした［　　］
>
> 1946年に相沢忠洋が群馬県で石器のかけらを見つけたことから日本にも旧石器時代があったことが証明された。相沢は、発見のときの気持ちを「ついに見つけた！定形石器、……この赤土の中に……。」と著している。

(4)　下線部ⓓについて、メソポタミア文明・エジプト文明について述べた文をそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい。

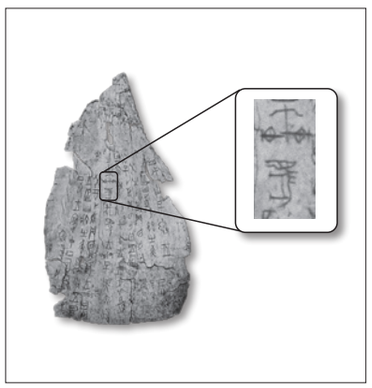
ア　ナイル川流域に栄え、太陽の動きをもとにした暦が作られた。
イ　モヘンジョ・ダロなどの都市が計画的に建設された。
ウ　60進法や１週間７曜制を使用した。
エ　成年男性の市民による民主政が行われた。

(5)　下線部ⓕについて述べた次の文**P**、**Q**の文の正誤の組み合わせとして正しいものを、あとの**ア**～**エ**から一つ選び、記号を書きなさい。

P　ローマ帝国は各地に道路や水道、闘技場（コロッセオ）や浴場を建設した。
Q　絶対神アラーへの信仰を説いたムハンマドの教えは、ローマ帝国の国教となった。

ア　**P**－正、**Q**－正　　**イ**　**P**－正、**Q**－誤
ウ　**P**－誤、**Q**－正　　**エ**　**P**－誤、**Q**－誤

(6)　下線部ⓖについて、右の写真は漢字のもとになった文字である。この文字の名前を書きなさい。



(7)　下線部ⓗについて、**適切でないもの**を**ア**～**エ**から一つ選び、記号を書きなさい。

ア　「仁」の教えを説いた儒教をおこした。
イ　北方の異民族の侵入を防ぐために万里の長城を築いた。
ウ　文字や貨幣などを統一した。
エ　始皇帝の墓の近くからは兵士や馬などの等身大の焼き物の人形が発見された。

2　次の会話文を読み、あとの問いに答えなさい。

先生：今日は縄文時代と弥生時代の人々の生活について考えていきましょう。

生徒：それぞれの時代について、表にまとめてみました。**資料１**と**２**はそれぞれの時代を代表する遺跡の写真です。人々は水辺の近くに定住するようになり、地面をほった穴に柱を立て、草ぶきの屋根をかけた（　ⓐ　）に住みました。

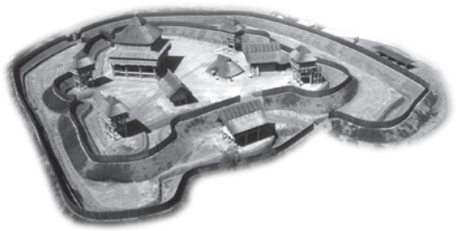
先生：遺跡の写真を比べてみて、何か違いはありますか。

生徒：**資料２**の吉野ヶ里遺跡の写真には、**資料１**の三内丸山遺跡にはみられないムラの周りに（　ⓑ　）をつくっています。水田稲作の伝来によって、人々の間に（　ⓒ　）が始まったのではないかと考えられます。

縄文時代	弥生時代
約１万年前～ ・ⓓ狩りや採集中心の生活 ・縄目の文様がついた土器を使用 ・貝殻や骨を捨てたⓔごみ捨て場が残る ・三内丸山遺跡	紀元前３世紀ごろから３世紀 ・水田稲作や金属器が伝来 ・簡素で実用的な土器を使用 ・ⓕ中国の歴史書に記述がある ・吉野ヶ里遺跡

資料１　三内丸山遺跡

資料２　吉野ヶ里遺跡



(1)　会話文中の（　ⓐ　）～（　ⓒ　）に合うように書きなさい。

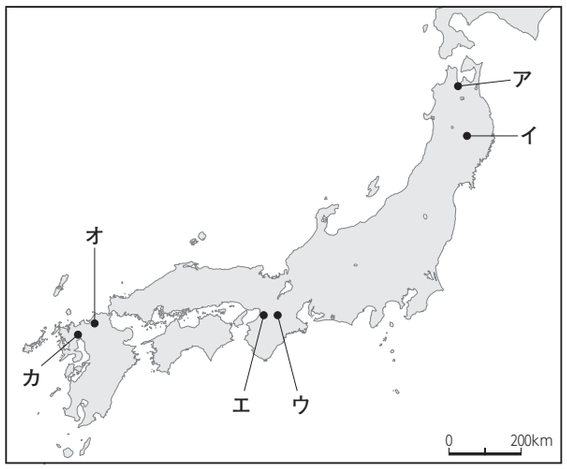
(2)　下線部ⓓについて、豊かな自然のめぐみを祈るためにつくられた人形を何というか。

(3)　下線部ⓔを何というか。

(4)　下線部ⓕについて、次の史料の［　　］にあてはまる人物を書きなさい。

> 魏志倭人伝
>
> 倭国は、もとは男性を王としていた。男性が王となっていたのは七、八十年ほどであったが、国内は乱れて、攻め合いが何年も続いた。そこで合議して、一人の女性を選んで王とし、この女王を［　　］と呼んだ。女王は宗教的な力で人々の心をつかんだ。……

(5)　三内丸山遺跡・吉野ヶ里遺跡の場所を右の地図からそれぞれ選び、記号を書きなさい。



評価問題